

表1.1 千葉県南部の土砂災害一覧表(井上・伊藤, 2006; 井上編著, 2013)

No.	現市町村	旧町村	地点名称	被害状況	河道閉塞	崩壊土砂(m ³)	人的被害(人)	家屋被害(戸)	出典
1	鋸南町	保田町	鋸山	鋸山の一部崩壊により明鏡県道埋没、交通途絶。					C
2	鋸南町	佐久間村	津辺野山	津辺野山頂で幅30cm、長さ100mに及ぶ地割れ。					C
3	鋸南町	佐久間村	大崩	大崩に山崩れ(村内で山崩れとともに川を堰止め、深さ6mに達した所もある)。					C
4	富浦町	富浦村	大房岬	大房山は、海中に入っている三方の岩石土塊が海中に崩壊。南無谷および豊岡の海岸も、所々大いに崩れる。大房山の南の雀島は、とがった先端が高さの半分より崩れ、平坦となる。					D
5	富浦町	富浦村	南無谷トンネル	房総鉄道の南無谷トンネル(第三紀頁岩を掘削)では北口と南口にそれぞれ大崩落あり。南無谷トンネル(旧岩富トンネル)の被害は最大であった。上部2ヶ所の崩壊のため、トンネル中央部240mが土砂に埋まった。復旧は、1923(大正12)年11月28日。西側に1926(大正15)年11月に新トンネル完成)。					B
6	丸山町	丸村	珠師ヶ谷	珠師ヶ谷区で約2000m ² が30cm以上隆起。丸山川沿岸に多少の陥没。					E
7	丸山町	丸村	大井・他	大井、珠師ヶ谷、宮下等の山間地でがけ崩れ。					E
8	丸山町	丸村	珠師ヶ谷	珠師ヶ谷字谷で山崩れ。約1.5万m ² にわたり、第三紀頁岩の表土のみ崩壊。					B
9	丸山町	千歳村	安馬谷和田	村道安馬谷和田と川合千田ヶ谷で陥没。					E
10	三芳村	国府村	明石	明石区にて稲都村に通じる街道約90m崩壊。					F
11	三芳村	国府村	人丸神社	人丸神社下耕地崩落。					F
12	三芳村	国府村	蓮花院	谷向において海老敷区に通ずる道路中、蓮花院地先約90m崩壊。					F
13	三芳村	国府村	海老敷・他	海老敷区より平群川に注ぐ支流に沿って海老敷、大学口、山下各区の耕地崩落。					F
14	三芳村	国府村	本織	国府村役場より府中県道に至る本織区地先において道路約100m崩壊。					F
15	三芳村	滝田村	千代	村の南半分方面は各所に亀裂を生じ、千代の土沢から下堀に通ずる河岸に沿う県道は、数間にわたり亀裂。					F
16	三芳村	滝田村	上堀	上堀集落の背後の山なども各所に山崩れ。					F
17	三芳村	稲都村	飯出	飯出にて長さ54m、厚さ9m位の山崩れ。					F
18	三芳村	稲都村	御庄	御庄にて約15mの山崩れ。					F
19	館山市	那古町	那古山	高さ40m、幅30mの崖が崩落し県道筋の住家2戸を全て埋没、10戸を大半埋没させ、即死者3名。翌2日正午の地震、26日17:15、および17:20の地震の時にも崖の一部が崩落し、11名が死傷した。那古山の亀裂は那古観音への上り口東側より起こり、山の南側中腹に沿って約600m東方に連続し、亀裂の幅は約90cm以下で山の傾斜に沿って落下するようであった。この亀裂は第三紀砂岩と表土との境界面に生じたもので、境界面に沿って薄い粘土層があった。砂岩には層理が発達し、かつこれに垂直な方向に剥離する性質がある。			14	12	B
19-2	館山市	船形町	崖の観音	船形町の背後の斜面には、俗に「崖の観音」がある。この観音堂は、京の清水寺観音堂のように張り出して建てられていたが、今回は一たまりもなく崩落した。崖下の母寺も庫裏も空しく倒壊した。其の北隣の丘陵に建設された東京市養育園安房分院の院舎数棟も全潰して、収容中の院児10名と職員1名が死亡した。			11	4	
20	和田町	南三原村	白渚	大原の浅間山では第三紀頁岩および表土が崩壊し、分水嶺に沿い東西に約50m亀裂が生じ、南側に約30m落下。以前山頂にあった鳥居が山腹に移動。	あり				B
				大字白渚の浅間山、南東斜面の崩壊は最も大きく、最大のものは西端のもので高さ81m、幅は底部で180mの三角形をしており面積は約1万m ² 。山林土砂とともに崩壊し、崖下の三原川を堰止め、水深10mの一小湖を形成。水は流路を求め、下流の田畑を流失し、河道を変えた。産業上の被害として、浅間山の崩壊と河道の変化により、水田約5000m ² 、温石川沿岸約1万m ² にわたり水田流失。また、畑地約6000m ² 、山林約1万m ² が埋没。					H
21	和田町	北三原村	貝沢	道路の崩壊が特にひどく、村内の主要道の崩壊は5ヶ所、埋没2ヶ所、決壊2ヶ所、橋梁破損1ヶ所。なお、里道、耕地、山野に通じる道路の崩壊はいたるところで起きた。特に村内の貝沢に通じる道路は途絶(山間部は地質的に地すべり地帯であることも被害を大きくした要因)。					H
22	千倉町	七浦村	高塚山	高塚山の丘陵では10数ヶ所の崩壊があり、余震の度毎に土石が崩れ落ち、下方の耕地を埋没。					I
23	市原市	戸田村	上原	上原の養老川右岸に位置する浅間山(センゲンヤマ:88m)の南断崖が崩壊。表土のロームのみならず下部の第三紀層にまで及ぶ崩壊は、長さ200m、幅40mにわたり川を堰止め、崩壊地下の山麓における土砂の高さは30mに及んだ。直ちに人口掘削により河道の南20mに疎水し、洪水を免れた。	あり				A
24	市原市	海上村	引田萬代	引田萬代の北西に突出した丘陵の東北東に長く延びる突端の北および南の傾斜面にN60°Eの方向に亀裂(長さ200m、幅1m、深さ1m、落差0.3~1m)。縁端では山麓に崩壊。					A
25	木更津市	富田村	今間	小櫃川沿岸今間下流より中川村に至るまで亀裂を生じ、両岸あるいは左岸に地すべり発生。土砂を河中に押し出した。亀裂は川岸より約100mの距離に及ぶ。					A